

(1) 専門性と総合性の融合を実現する施設・設備等：●

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	A 群：大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
大学院	A 群：大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 B 群：大学院専用の施設・設備の整備状況

「高い専門性と総合性の融合」を実現するための施設・設備等の整備を行うことを目標としている。①本学は学科等により、教育研究領域が全く異なるため各領域に対応した施設・設備等（専門施設）の整備を基本とする。②次に教養・総合的な教育研究及びリテラシーを実現するための施設・設備等（共通施設）の整備を行う。

この二本柱を基本として教育目標の実現を目指している。

a. 専門施設と共通施設

イ．八王子キャンパス（美術学部・大学院美術研究科）



八王子キャンパス計画開始前（1993年）



八王子キャンパス（2007年）

1998年に、社会のニーズ等を総合的に検証し美術学部の改組転換を行い、教育研究領域の改編を行った（Ⅱ－一．理念・目的・教育目標 P.11-13 参照）。この改組転換により、より高い専門性の確立を実現するための施設・設備が求められ八王子キャンパス計画がスタートした。必ずしも十分でなかった校地の拡充と、老朽化が進んでいた施設の立て替えを同時に行った。

校地については1994年～2007年の間、計84,503㎡の校地拡充を行い、施設・設備等の拡充に備えた。施設については1997年～2007年の間、8学科等及び事務・福利厚生棟等の計23棟が新築整備され、設備等についてもその殆どが取り替え更新を行った。

Ⅱ-七. 施設・設備等

八王子キャンパス計画開始時の1993年当時と2007年現在を比較すると、プレハブが主であった施設が、専門施設と共通施設の両輪が整備され充実した施設へと一変した。



(図Ⅱ-七-1 八王子キャンパスマップ)

C・D・E・F・H・I・Qが専門施設である。B・G・J・K・Sが共通施設となっている(図Ⅱ-七-1 参照)。

【専門施設】

教育研究領域に対応する独立した施設と専門的設備等を整備し、高い専門教育を実現している。

・絵画学科、大学院美術研究科

絵画北棟(D)と絵画東棟(C)からなる日本画、油画、版画の各専攻の施設である。



日本画実習室



銅版画工房

Ⅱー七. 施設・設備等

制作方法の違いを考え、日本画専攻の実習室と展示室に床暖房を設置している。油画専攻は、3階に大学院の実習室、4階にはシルクスクリーン、テンペラ、フレスコの技法講座専門の部屋を設置している。版画は、木版・銅版・リトグラフ・シルクの各版種ごとに実習室を設け、刷台、プレス機、ローラーを設置している。銅版実習室には、腐食室も併設している。絵画棟には、自由デッサン室（大石膏室）があり、各専攻共通で使用している。

・彫刻学科、大学院美術研究科

木彫・石彫・金属・諸材料・塑造の領域ごとに建物が独立しており、その建物が連立した彫刻棟群（E）からなる施設である。



金属実習室



木彫実習室

各棟には、大勢で同時に作業のできる広いスペースがあり、大きく重量のある作品も移動できるホイストクレーンを設置している。

・工芸学科、大学院美術研究科

ガラス・金属・陶の領域ごとに建物が独立しており、その建物が連立した工芸棟群（H）からなる施設である。



ガラス溶解炉



窯場

ガラス棟には、ガラス溶解炉（200KG）を2機設置したホットワーク実習室、大型電気炉2機を設置したモデリング室がある。陶棟には、窯場に大型のガス窯4機と電気窯4機を設置している。

・グラフィックデザイン、生産デザイン・プロダクト専攻、環境デザイン学科、大学院美術研究科

グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻、環境デザイン学科からなる建物（F）である。

Ⅱー七. 施設・設備等



マルチメディアルーム



コンピュータールーム

学科等ごとに、専用のコンピュータールームとプレゼンルームを持ち、講義室には全てプロジェクター等を完備した AV 設備を設置している。

- ・生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻、大学院美術研究科



織実習室



スクエア・ラボ

テキスタイル棟（Ⅰ）には、様々な染織技術に対応できるスペースと機材が備わっている。染織実習、織実習はもとより、シルクスクリーン、インクジェットプリンターによる色々な布へのプリントやコンピュータ織機による制作が可能

な設備を設置している。

- ・情報デザイン学科、芸術学科、大学院美術研究科

当該学科等及び全学共通利用できるアートスタジオから構成されている施設である（Q）。情報デザイン学科と芸術学科と所々で交流をもてる建物として設計されている。



情報芸術コース実習室



芸術学科ラウンジ

【共通施設】

共通施設は、①基礎教育科目等により教養教育を実現する講義室等、②教育研究の学際化に対応した所属学科等の領域外を学ぶ共同施設からなる。

・講義室等

基礎教育科目等を行う共通教育センター（J）、講義等を行うレクチャーホール（B）により構成されている。また共同施設のメディアセンターのコンピュータスタジオはコンピュータリテラシー教育を行っている。



共通教育センター・LL 教室



レクチャーホール・Aホール

共通教育センターは 2005 年の改修で講義室の一部に、専用の機器を配備した LL 教室を設置した。また、各講義室に AV 機器を設置した。



レクチャーホール・Cホール



メディアセンター・コンピュータスタジオ

レクチャーホールは、300 人収容の A ホール、200 人収容の B ホール、100 人収容の C ホール、一般教室群からなる全学科共通の複合施設である。A ホール、B ホールは大型プロジェクターを設置した

階段教室で主に AV 授業に使用される。C ホールは、U 字形の階段教室で、中央に立体作品をプレゼンテーションできる他に例を見ない美術大学ならではの教室である。

Ⅱー七. 施設・設備等

・ 共同施設

共同施設であるメディアセンターは、危険を伴う大型施設等を集中的に管理する施設であると共に、教育研究の学際化に対応した施設である。共同施設であるため、所属学科等の領域外の学習を行うことが出来る。例えば、日本画の学生が映像編集を行う、芸術学科の学生が工作機械を用い制作を行うことも可能である。メディアセンター（K）、工作センター（G）、第2工作センター（S）からなる。



映像スタジオ



写真暗室



木工室



集塵機

メディアセンターの設備は、コンピュータ編集室、メディア編集室、写真スタジオ、多目的スタジオ室等からなる。

工作センターは、樹脂機械室、金属機械室、塗装機械室に分かれ、学科等の枠組みを越えて素材や加工方法を学べる教育施設である。第2工作センターは、工作センターの危険な大型機器が集められているため、安全に

作業が行える環境が整備されている。

ロ. 上野毛キャンパス（造形表現学部）



上野毛キャンパス

上野毛キャンパスは、都心に近く交通の利便性を活かし、わが国では初めて夜間に美術教育を行う造形表現学部のキャンパスである。



(図Ⅱ-七-2 上野毛キャンパスマップ)

B・C・D・G・Hが専門施設である。Aが共通施設となっている（図Ⅱ-七-2 参照）。

【専門施設】

教育研究領域に対応する独立した施設と専門的設備等を整備し、高い専門教育を実現している。

・造形学科

2号館（C）の1～3階に日本画と油画の実習室を備えている。日本画実習室が12室、油画実習室が14部屋、他実習室が2室ある。



日本画実習室



油画実習室

制作方法の違いを考え、日本画は床張り、油画はリノリウム張りのアトリエである。1部屋を数名でアトリエとして使用するのが基本である。

Ⅱ一七. 施設・設備等

・デザイン学科

主に実習室として1号館（B）を使用している。



コンピュータールーム

コンピュータールームと実習室を合わせ Mac236 台、Windows66 台の全 302 台のコンピュータを設置している。また、サーバーと教室間の幹線を光ケーブルに張り替え、ホームディレクトリーへのアクセス速度の高速化を実現している。コンピュータ室内には、防音室を設置してアフレコやモニターでのサウンド編集、簡単なレコーディングが行える。

工作スタジオには、目的別に木工室、工作室A、工作室Bの3つの部屋がある。木工室は主に木取り、荒取りをする部屋、工作室Aは木工室で加工したものの仕上げ加工と組み立てをする部屋、工作室Bは新規導入した NC 旋盤での工作物を加工する部屋となっている。



工作室 NC 旋盤

・映像演劇学科

主としてスタジオ、編集室などの実習室として3号館（D）、A棟（G）、B棟（H）を使用している。



3号館映像スタジオ



3号館 VTR 編集室



A棟演劇スタジオ

3号館（D）には、VTR 編集室等を併設した映像スタジオや専門的な撮影が行える写真スタジオを設置している。A棟（G）は演劇の実習の行える総鏡張りの演劇スタジオと工作スタジオを設置している。B棟（H）には、写真の暗室と演習室を設置している。

Ⅱ-七. 施設・設備等

【共通施設】

本館（A）の2階と3階、2号館（C）の地下1階には講義室とAV教室が設置されている。共通施設では基礎教育科目等の講義を主として行う。各講義室には、プロジェクターが設置されており、AV機器を設置している。

b. 教育効果を高める施設・設備等

上述したように専門施設と共通施設の両輪により、「高い専門性と総合性の融合」を実現することが出来る。その教育成果を発表する場としてギャラリーを設け、学習意欲の向上にあてている。

イ. 八王子キャンパス（美術学部・大学院美術研究科）

各専門施設のメインエントランスにギャラリーを設置している。ギャラリーでは教育成果の発表が盛んに行われている（Ⅱ-三. 課程の教育内容・方法等 P.42 参照）。



彫刻棟ギャラリー



テキスタイル棟ギャラリー

また、ギャラリーにおいて講評会を行うこともある。成果発表と言う観点だけでなく、授業公開と言うファカルティ・ディベロップメントを促進する設備でもある。

ロ. 上野毛キャンパス（造形表現学部）

上野毛キャンパスにはギャラリーを設けていないが、エントランスや中庭、講堂などを使用して教育成果の発表を同じく行っている。

c. その他の施設

その他、次の施設を設けている。

イ. 図書館

「Ⅱ-八. 図書館及び図書・電子媒体」で記載する。

ロ. 美術館

八王子キャンパス内に設けていた美術館を 2000 年 4 月に多摩市に移転した。教育研究施設としての役割は、博物館実習と共同研究の拠点として利用されている。博物館実習では、毎年 100 名ほどの学生が 2 週間の実習を受けている。また学科等の枠を超え、共同研

Ⅱ－七．施設・設備等

究の拠点として利用され、その成果公開を行うことも多い。

広く一般に対する公開施設としての役割は後述する（本区分 P.130-131 参照）。

ハ．研修施設

学生の研修を行う目的として、富士山麓セミナーハウス（山梨県山中湖村）、奈良古美術セミナーハウス（奈良市窪之庄）の研修施設を設けている。毎年、美術研修の拠点として多くの学生が利用している。

本学の教育目標である「高い専門性と総合性の融合」を実現できる教育環境を目指し、特に八王子キャンパスの抜本的建設整備の取り組みを行って来た。専門性の高い施設・設備等の配置と、領域を越えた教育を学ぶ共通施設・設備等により、目標は高次に達成されていると評価出来る。また成果発表を積極的に行える環境として、ギャラリーを整備していることは、学習意欲の向上だけでなく「プレゼンテーション能力の修得」と言う美術大学に欠かせない能力育成の上で有効に機能していると高く評価出来る。

（２）情報処理設備：●

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	B 群：教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

専門施設に配備されている設備は、専門性を高めるための利用を目標としている。一方、共通施設に配備されているものは、研究領域を超えた教育とコンピュータリテラシー教育を目標としている。

イ．専門施設のコンピュータ配備状況

学科等名		設置場所	Win 合計	Mac 合計	Win Mac 合計
八王子	グラフィックデザイン学科	デザイン棟 2・3・4 階	10	162	172
	生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻	デザイン棟 1・2 階	0	60	60
	生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻	テキスタイル棟 102・103・202・ 織コンピュータ室 205	10	31	41
	環境デザイン学科	デザイン棟 4 階 CAD 室	9	81	90
		デザイン棟 5 階大学院室	4	0	4
	情報デザイン学科	情報芸術コース	2	80	82
		情報デザインコース	43	47	90

Ⅱ-七. 施設・設備等

学科等名		設置場所	Win 合計	Mac 合計	Win Mac 合計
	芸術学科		21	22	43
上野毛	デザイン学科	1号館1階、 地下1階コンピュータルーム	38	219	257
	映像演劇学科	3号館2階	1	20	21
	合計		138	722	860

(表Ⅱ-七-1 コンピュータ設置状況・専門施設)

専門教育としては、他大学に先駆けて Mac (マッキントッシュ) を中心に導入して来た。また、コンピュータを使用した授業が多いグラフィックデザイン学科や造形表現学部デザイン学科は、より高い専門性を実現するために数年ごとに機械を入れ替え、専門領域において常に社会のニーズに応えられる学生を育てている (表Ⅱ-七-1 参照)。

ロ. 共通施設等のコンピュータ配備状況

学科等名		設置場所	Win 合計	Mac 合計	Win Mac 合計
八王子	共通教育	共通教育センター3・4階	13	11	24
		共通教育センター4階LL教室	75	0	75
	メディアセンター	メディアセンター3階 コンピュータスタジオ	0	86	86
	図書館	図書館1・2階ラボラトリ	19	2	21
	教務部	本部棟2階国際交流室	2	0	2
	就職課	本部棟1階就職資料室	8	0	8
上野毛	造形表現学部事務部	1号館3階1-307	10	0	10
		本館2階就職資料室	3	0	3
	合計		130	99	229

(表Ⅱ-七-2 コンピュータ設置状況・共通施設)

【総合性の実現】

2005年3月には、八王子キャンパスの共通教育センター棟の改修で専用の機器を75台配備したLL教室を設置し、語学を中心とした授業等で広く活用している。そのほか、メディアセンターには3DCGスタジオを設け、映画、ゲーム等で多用されている3DCG専用のコンピュータを設置している。上野毛キャンパスでは、2号館の教室を改修して視聴覚教室を3部屋設置している。また、全ての講義室にAVラックとプロジェクターを配置し、多様な授業形態に対応している。

【リテラシー教育】

八王子キャンパスメディアセンターのコンピュータスタジオには、学生が自由に利用出

来るコンピュータをA・Bの2部屋に計86台設置している。ファインアート系の学生も自由に利用出来、普段コンピュータにあまり接しない学生に対してリテラシー教育を行う場を提供することが目的である。

これら情報処理機器を有効に活用するために、早くから光回線によるデータ処理を採用し、光ケーブル基幹網が施設間を結んでいる。また、キャンパス間の垣根を越えて1998年4月から学内ネットワークの整備が開始され、1999年9月から学内LANの使用を開始した。現在では、有線LANと無線LANを並置し、両キャンパス内各所でワイヤレスによるパソコン接続を可能にしている。

（３）社会に開放される施設：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	C群：社会へ開放される施設・設備の整備状況

大学の社会貢献、地域参加の拠点として機能する施設を目標としている。



附属美術館

美術館は、1999年より準備を進め東京都多摩市の中核開発地域である多摩センター地区への移転を行った。多摩ニュータウンの中心的なターミナル駅である多摩センター駅前に同地区としては唯一の美術館として2000年4月にオープンした。

この移転については、当初八王子キャンパス計画において新美術館の建設計画も存在していたが、大学の社会貢献、地域参加の拠点として、より多面的で

実質的な活動や交流を社会で展開し、キャンパス内施設だけではなく市街地区での大学活動という戦略的視点から、「駅前」にある美術館施設を取得した。

開館当初の段階では、美術系大学が運営する美術館としては稀有な存在であり、キャンパス外に美術館を有するのは日本で初めての試みであった。また、常設展のみならず企画展を開催し、学生に加えて学外からの利用者を誘致する一般公開に力を入れて来た。一般市民に対しても美術大学から発信していく試みが、広く社会における芸術活動の土壌拡大と発展に役立っている。

Ⅱ－七．施設・設備等

常設展だけでなく、様々な企画展により常に地域への発信を行っていることは高く評価出来る。2007 年度の来場者状況を見ると、本学学生以外の来場者数が大変多い（表Ⅱ－七-3 参照）。これは地域への開放を着実に進めて来ており、社会貢献、地域参加の拠点として根付きつつあると評価出来る。

展覧会名	開催期間	一般	大高生	招待者 (券)	多摩 美生	その他	計
彩に情熱－鶴見雅夫－展	2007.3.28～2007.4.15	—	—	—	—	—	850
市川保道展	2007.4.25～2007.5.13	—	—	—	—	—	1,312
タイ・シルパコーン大学 多摩美術大学交流展	2007.5.20～2007.6.17	194	28	17	101	282	622
東方のイラストレーション ポスター展	2007.7.1～2007.9.2	803	224	310	622	1,050	3,009
建築家今井兼次の世界Ⅱ展	2007.9.12～2007.10.21	408	93	358	109	121	1,089
若林奮 DAISY1993-1998	2007.11.2～2007.12.16	450	162	262	201	324	1,399
福沢一郎展	2008.1.6～2008.3.2	211	46	155	9	73	494
多摩美術大学博士課程展	2008.3.10～2008.3.25	—	—	—	—	—	—
計		2,066	553	1,102	1,042	1,850	8,775

※2008.1.31 集計数

※総計には入場者区分不明分含む

※「彩に情熱－鶴見雅夫－展」は 3.28～3.31 の前年度分 317 名含む

（表Ⅱ－七-3 2007 年度企画展開催・来場者状況）

(4) キャンパス・アメニティ：●

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	B群：キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況 :「学生のための生活の場」の整備状況 :大学周辺の「環境」への配慮の状況

①学習意欲を向上させる環境整備、②学生の居場所の提供、③地域との共生からキャンパス・アメニティを実現することを目標としている。

a. 学習意欲を向上させる環境整備—アート計画

アート計画は、キャンパスを作品で満たすことで、キャンパス全てを生きた創造・美術教育の場とする目的で計画された。

イ. 八王子キャンパス（美術学部、大学院美術研究科）



空相（関根伸夫）



TINDARI（長澤英俊）

八王子キャンパスの正門北側には、本学客員教授 関根伸夫の彫刻作品、本部棟前には上野毛時代の歴史を刻む建畠寛造の彫刻、メディアセンター前には本学客員教授 五十嵐威暢の彫刻作品などが配置されている。

建物内にも本部棟玄関ホールの名誉教授 中村錦平をはじめ多くの作家の作品を設置している。これらはいずれも本学の教授陣や本学に関係した

芸術家たちの手によるもので、作品を鑑賞することによる新たな発想と制作意欲の誘発が目的である。

ロ. 上野毛キャンパス（造形表現学部）

上野毛キャンパス本館には、建物正面に笠置季男によるファサード壁面の鉄板レリーフが設置されている。講堂壁面には、コンクリート粗地の上に建畠寛造によって制作された

作品が設置されている。この建畠覚造の作品は、過去に毎日国際美術展にも出品された。



ファサード 壁面レリーフ（笠置季男）



オルガン No.7（建畠覚造）

b. 学生の居場所の提供—厚生施設及び緑化

イ. 八王子キャンパス（美術学部、大学院美術研究科）



カフェスペース（Boulangerie Tougaku）

八王子キャンパスは、キャンパス計画の整備と共にキャンパス・アメニティを十分配慮しうる環境となった。1998年に学生席300席と教職員専用ファカルティールーム60席を有したグリーンホール（食堂棟）が竣工した。これにより、キャンパス内に食堂が2カ所となり昼食時の混雑が緩和され、授業のない時間の休息の場所としても利用されている。また、グリーンホール（食堂棟）には、売店と画材店も併設されている。

2007年に竣工した情報デザイン・芸術学科棟には、学生支援施設として軽食を中心としたカフェテリアとPC関連等を扱うショップ、ペーパーショップが併設されている。その他、多目的ホール（TAUホール）、学生クラブ棟などを備えている。

また、厚生施設だけではなく積極的緑化を進め、落ち着いた環境で学生生活を送ることが出来るように配慮している。絵画北棟南側の二次自然林は、八王子キャンパス計画でも全く手を付けることなく大切に昔のままの姿で保全している。人工林としては、開校時に施工された旧グランド脇の桜と銀杏並木の面影を、デザイン棟、グリーンホール間に再現し、また開校時から大学と共に成長して来た木々を、構内の各所に移植することにより、歴史の息吹を大切に今につなげている。周辺に対する配

慮としては、敷地南側から西側にある広域緑道「むさしの道」(歩行者専用)に沿うように学内に並木を設け、周辺に対し積極的に緑を提供している。



修景池

テキスタイル棟北側の池は、周辺の雨水の調整池(貯水能力:1,000 t)として、下方の大栗川に流れ込む水量の調整をしている。この池の周りには、テキスタイルデザインに関係するミツマタ、コウゾ、クワなどの植物で緑豊かな空間を造り、水辺空間による憩いの場、昆虫・水鳥・魚が棲める環境づくりを実践している。

ロ. 上野毛キャンパス(造形表現学部)

上野毛キャンパスは、もともと1,500名の学生を受け入れられるよう設計された。現在は、造形表現学部の学生約800名が8施設で学んでいるため、学生の研究や制作には十分な校地である。開学以来のキャンパスであるため、中庭は緑に覆われ学生たちの憩いの場となっている。

また、八王子、上野毛の両キャンパスに無線LANが設置されており、共通スペースや中庭を中心とする各所でワイヤレスによるパソコン接続を可能にしている。開放的なスペースでインターネットにアクセス出来、課外活動等への支援の観点から有効な取り組みである。

c. 地域との共生—環境対策等

イ. 八王子キャンパス(美術学部、大学院美術研究科)



氷蓄熱槽(本部棟屋上)

【環境対策・災害対策】

デザイン棟、本部棟、図書館棟には、センサーによりその場の明るさに応じて自動的に調光出来る照明システムを備えている。

メディアセンター、本部棟には、一部氷蓄熱システムによる冷房設備が導入されている。夜間電力を利用し蓄熱槽に氷を作り、昼間にその氷を使い冷房を行う。これらにより省エネとCO2排出量の削減に寄与している。

TAUホール、レクチャーホールの屋上



太陽光発電設備（TAUホール屋上）

には、太陽光による発電設備を備えている。TAUホールと彫刻棟には、太陽熱の利用による温水シャワー設備を備えている。これらにより、停電になった場合でもTAUホール内に最低限の電気を供給出来、シャワーの使用が可能となっている。

また、絵画北棟、工芸棟、デザイン棟、工作センター、テキスタイル棟、グリーンホール、メディアセンター、レクチャーホール、本部棟、情報デザイン・芸術

学科棟及び図書館には、雨水利用によるトイレ排水設備を設置している。この設備の導入により、自然エネルギーである雨水を積極的に利用することで、上水の利用を少なくし、節水を行っている。また、常時地下に水を貯めることで非常事態発生時（大災害等）における水の確保にもなる。通常時の使用はもちろん、緊急災害時の地域の緊急避難場所として機能することを考慮している。

【排水の監視】

八王子キャンパスの大規模なキャンパス計画の推移とともに竣工した建物では、専門業者による全量回収（動植物油・鉱物油、有機溶剤、重金属などを含む溶液、その他有害物質を含む排水）を除いて、排水は全て公共下水道へ放流されている。環境問題に関心が高まっている今、大学として環境保全、排水の監視に配慮している。その対策として、各学科等に使用薬品の種類・量及びその使用方法・処理方法の確認を行い、学科等で使用している対象物質毎の「製品安全データシート（MSDS）」ファイルを作成し、各アトリエからの排水について専門業者による測定を実施した。

有害物質排出の疑いのある施設については、中継枡等を設置して、定期的に専門の許可業者による汚泥の回収を行っている。各アトリエから排出される有害物質を含む排水に関しては、そのまま公共下水道に流出しないよう、TAUホール北側に除害施設を設置埋設して危険物質処理施設として機能させている。キャンパス計画第3期では、キャンパス内にある2つの食堂の厨房に油脂の排水を防ぐ厨房除害施設を設置埋設した。そして、2007年にはキャンパス内東排水ルートのための除害施設を校地北側に増設した。

【駐車場・駐輪場】

八王子キャンパスは、学生の通学に使用されるバイクや自転車のために、キャンパス内に2カ所の駐輪場を設置している。キャンパス北側駐輪場には、バイク約100台、自転車約300台、キャンパス東側駐輪場には、自転車約900台が駐輪可能である。

八王子キャンパスは、多摩丘陵の緑を生かしアートと共存させることによって、学生たちのコミュニケーションの場を配置している。環境への配慮も、キャンパス整備によって他に先駆けた設備の導入と、排水の監視や除害施設の建設にも現れているとおり環境への配慮を行っている。

Ⅱ-七. 施設・設備等

ロ. 上野毛キャンパス（造形表現学部）

上野毛キャンパスは、近年建築された建物がないため、環境対策等は大掛かりに行う状況にない。しかし有害物質を含む絵の具を利用する造形学科においては筆洗缶を用い、公共下水道に有害物質を排出させない等地道な努力を重ねている。

（５）施設利用の配慮：●

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	C 群：各施設の利用時間に対する配慮の状況 A 群：施設・設備面における障害者への配慮の状況

利用者の利便性向上と有効活用できる利用時間・期間の配慮を目標としている。また障害者を受け入れられる施設・設備の整備も併せて目標としている。

a. 施設の利用時間

各施設の利用時間は、次のとおりである（表Ⅱ-七-4 参照）。

八王子キャンパス（美術学部、大学院美術研究科）

施設名	利用時間	利用期間	備考
講義室・実技室	平日 9:00～21:00 休日 9:00～17:00	校舎閉鎖期間以外	
図書館	平日 9:00～20:30 （休暇中は 17:00 まで） 土曜 9:00～17:00	日曜・祝日、校舎閉鎖期間、 蔵書点検時は休館	※新図書館になり年 58 日 開館日数を増やした。
メディアセンター コンピュータスタジオ	平日 9:00～19:30 土曜 9:00～16:20	学事日程授業期間	※メディアセンターの各 センターは、授業に関係 する使用については、利 用時間・利用期間に係ら ず可能な限り施設を開放 して対応している。
メディアセンター 映像センター	平日 9:00～19:00 土曜 9:00～17:00	学事日程授業期間	
メディアセンター 写真センター	平日 9:00～19:00 土曜 9:00～16:30	学事日程授業期間	
メディアセンター 工作センター	平日 9:00～20:30 土曜 9:00～17:00	学事日程授業期間	
グラウンド	平日 放課後～21:00 休日 9:00～17:00	校舎閉鎖期間以外	
テニスコート	平日 放課後～21:00 休日 9:00～17:00	校舎閉鎖期間以外	

Ⅱ-七. 施設・設備等

上野毛キャンパス（造形表現学部）

施設名	利用時間	利用期間	備考
講義室・実技室	平日 14:00～22:00 休日 10:00～22:00	校舎閉鎖期間以外	
図書館	平日 10:00～21:30 土曜 13:00～20:00	日曜・祝日、校舎閉鎖期間休館	
工作室	平日 14:00～17:10	学事日程授業期間	※18:00以降と土曜は授業で使用
映像演劇学科演習室	平日 14:00～22:00	校舎閉鎖期間以外	※休日、時間外の使用は担当教職員立会いのもと利用可
メディアセンター 映像スタジオ	平日 9:00～21:30	学事日程授業期間	※休日、時間外の使用は担当教職員立会いのもと利用可
テニスコート	平日 9:00～16:00 休日 9:00～16:00	校舎閉鎖期間以外	※授業時間は除く

美術館

施設名	利用時間	休館日	備考
美術館	10:00 ～ 18:00	毎週火曜日、施設点検日等、年末年始	※本学学生、教職員、中学生以下、障害者は入場無料

（表Ⅱ-七-4 各施設の利用時間の状況）

施設の利用時間については、授業期間終了後も各施設の利用期間を増やした。特に、八王子キャンパス図書館は2007年度より年間58日開館日数を増やした。利便性が大幅に向上したと評価出来る。

b. 障害者への配慮

八王子キャンパスでは、1997年からのキャンパス計画で新築された絵画棟、デザイン棟、彫刻棟、工芸棟、テキスタイル棟、メディアセンター、レクチャーホール、本部棟、そして2007年春竣工の情報デザイン・芸術学科棟、新図書館、第二工作センターは、障害者が利用可能なエレベーターを設置した。また、これらの新校舎は、建物入口にスロープも設置しており、車も入口付近に駐車出来るスペースがある。

古い建物でも対策を講じている。八王子キャンパスの絵画棟は、2002年に私立学校施設整備費補助金を受け、階段に常設の車椅子昇降機の設置工事を行った。また、同年に移動式の昇降機を購入し、八王子キャンパス共通教育センターや上野毛キャンパスのエレベーターが設置されていない建物でも対応出来るようにした。

トイレについて、八王子キャンパスでは、1997年以降竣工の建物は建物内に最低1カ所

Ⅱ一七. 施設・設備等

は障害者が利用出来るトイレを設置し、古い建物の共通教育センターや絵画棟は、障害者が利用出来るようにトイレの改修工事を行った。上野毛キャンパスは、2006年に2号館女子トイレの改修工事を行い障害者が利用出来るトイレを設置した。他の建物は、本館に一部手摺が設置されているがほとんど未整備なのが現状である。

上野毛キャンパスは、古い校舎が多く今は不十分だが、障害者の利用が考えられる場合は早急に改善し対応する。また、将来改修が行われる際には、もちろん障害者に配慮した施設に改修することは既に念頭に入れている。

八王子キャンパスは、整備計画によりバリアフリーがほぼ整い、古い建物でも個別対策を講じており高く評価出来る。上野毛キャンパスは、全ての建物が古いため必要性に応じて対応しているが、社会人学生の受け入れや生涯学習での一般への開放を積極的に行っているため、部分的改修では対応しきれない現状がある。

(6) 組織・管理体制：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	B群：施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況 ：施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況
大学院	A群：施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況 B群：実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況

施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立と、施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備を目標としている。

a. 施設・設備等の維持・管理

上野毛キャンパスは総務課が、八王子キャンパスは八王子校舎総務課と施設室が施設・設備の維持管理を行っている。また、同部署が学内の環境保全や防災、警備などに関する業務も所管する。

八王子キャンパスは、八王子キャンパス計画の進捗と共に校地・校舎が拡大し、施設・設備の維持管理が大変難しくなっている。しかし現在までは、キャンパス計画が進行中だったため施工業者が常駐しており、維持管理も含めて対応していた。また、八王子キャンパスには絵画棟地下に中央監視室があり、構内の空調・照明・防災設備等をコンピ

ュータにより集中管理できるシステムがある。このシステムは、本部棟、第2工作センター、情報デザイン・芸術学棟に副受信室を持ち、そこでも異常の確認と操作ができるようになっている。

校舎及び付属設備は、竣工図書等の図面を管理することにより維持管理を継続して行えるようにしている。また、建築基準法、消防法等の各法令を遵守し、機能保全、保安、清掃、衛生管理を行っている。

機能管理のために、各設備の法定検査等を行いその記録を保管すると共に、外部業者による補修工事を行っている。保安管理については、24時間常駐で警備会社に業務委託を行っている。清掃については、専任の用務職員で行っていたが、キャンパスの拡大と設備の増量と多機能化により、専任の用務職員から外部業者による業務委託に順次切替えを行っている。

教育設備については、美術大学という特質から、学生が制作に利用する大型の機械等が研究室や共通施設に設置されている。これらは技術職員や研究室の指導により利用出来るようになっている。特に危険を伴う機材は、工作センターと第2工作センターに集約している。また、研究室では各設備・機器の利用マニュアルを作成して学生に周知している。

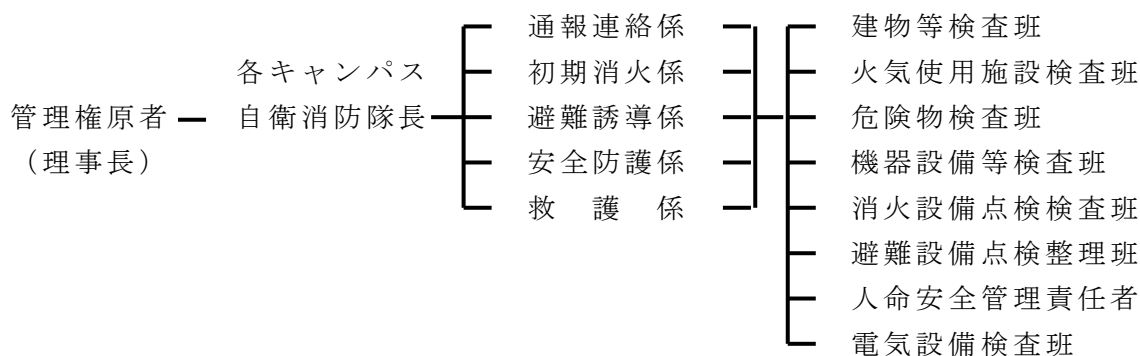
b．災害・緊急時の対応

各キャンパスに消防計画規程があり、そのなかに火災・地震・その他の災害についての計画が定められている。

防火管理については、防火対策委員会を設置し計画の作成及び実行、防火思想の普及と高揚、その他防火に関する対策を目標としている。また、自衛消防組織を編成して火災その他事故発生時の被害を最小限にとどめるよう努めている。

毎年一度、災害への意識啓発のため最寄りの消防署に指導を依頼して防災訓練を実施している。また、近年、地震による災害が多いことから数年前より災害備蓄品の整備も行っている。

自衛消防組織



学生のケガ等の緊急対応については「Ⅱ－十．学生生活 P.167-168」で記述した。

施設・設備等の維持・管理について、八王子キャンパスは施設の整備により中央監視システム等の新しい設備を導入したことは高く評価出来る。しかし専門的な人員の不足によ

り、これら設備を活かしきれていないことが課題として挙げられる。上野毛キャンパスは、今まで建築士の資格を持つ職員が常駐していたこともあり、専門的な視野で年度計画をたてて大きな補修を行って施設・設備等の維持・管理を行って来たが、現在は業務全般を総務部に移管して行われている。

八王子キャンパスの施設・設備等の維持・管理については、上野毛キャンパスに比して膨大であることから総合的かつ長期的視点での管理体制を構築する必要があると認識している。改善方策として、2008年4月よりビルメンテナンス専門の管理業者への業務委託を行うこととした。これにより建物維持管理・整備・修繕に至るまで、専門的立場で総合的かつ長期的視点の維持・管理マネジメントが可能となる。

教育設備については、専門分野における設備が多岐に亘り、導入から経年するにつれ保守に係るコストも増大することが懸念される。それを少しでも軽減するため日常の点検・整備を教職員、学生で常に行っている。

教育設備の安全管理及び災害・緊急時の対応については、人員配置、利用（対応）マニュアルが作成されており十分であると認識している。しかし各担当課・科に任されていることは、各所での責任ある対応と裏腹に精粗が生じ事故等につながる可能性もあり課題として挙げられる。

改善方策として、2008年度中に教育設備の安全管理、災害・緊急時の対応等を包括した「総合マニュアル」の作成を検討している。

（7）学術資料の保管：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学院	B群：学術資料の記録・保管のための配慮の適切性 ：国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

研究成果、作品及び収集した学術資料を記録保管し、機能的アクセスを可能にし、広く世界に情報を提供する。

芸術学科現代美術アーカイブにおいては、大学院生の協力の下に、秋山邦晴アーカイブをはじめ、東野芳明アーカイブ、峯村敏明アーカイブ等のデータベース化に取り組んで来た。また、図書館所蔵特殊文庫の瀧口修造文庫について、オンライン蔵書検索、論文掲載、スケッチブックの画像データベース、絵葉書データベースなど、資料のデジタル化を進めて来た。

- ・瀧口修造文庫：<http://archive.tamabi.ac.jp/bunko/takiguchi/t-home.htm>
- ・北園克衛文庫：http://bunko.tamabi.ac.jp/bunko/kitasono2002_trial/k-home.htm

さらに、文部科学省の補助金を利用して、共同研究によるシュルレアリスムの文献、展覧会カタログ等のデジタル化に取り組んでいる。

ハード面では、新図書館竣工に伴い、閲覧できるコンピュータが飛躍的に増え、サーバーも整備されるため、情報発信の基地として、コンテンツの整備に取り組む状況が整いつつある。また、図書館のアーケード・ギャラリーでの展覧会パフォーマンスについても、WEB上で公開できるよう、準備を進めている。

現在の取り組みは、各部署で個別に取り組んでいる面があり、今後全体をまとめる必要がある。特に、大学院美術研究科博士後期課程（博士）の論文及び作品のデータベース化は必須であろう。また、芸術学科のアーカイブは改変が進められており、大学側でのサポートが必要である。

全体の取りまとめ、及び各活動をサポートする部署として、資料センターの設置が計画段階にあり、施設も設計段階にある。役割と機能の整理・方針策定を進める。

